第３回　クラスの小さな仲間たち

捕まえたニホントカゲ（名前は募集中です）

２年３組に新しい小さな仲間が加わりました。
生活科の授業で、神社で捕まえたニホントカゲです。鎌田先生と３組の子３人で捕まえたので、話し合って教室で飼うことになったそうです。
ニホントカゲは、幼体のころは尾が青く、子どもは「ニジイロトカゲ」と呼ぶこともあります。この子は尾の色も変化した立派な成体です。
トカゲはどこにでもいますが、なかなか捕まえられないので、捕まえたら子どもたちの中で、憧れの存在になれます。私もトカゲが出ると、「捕まえないと！」と思わず体が動いてしまいます。
尾の自切や再生、冬眠、産卵など子どもの興味をひく要素もたくさんあるので、探究テーマにもおすすめです。
実は３組担任の鎌田先生は、SOLANに来るまでは生き物がすごく苦手だったそうです。しかし、子どもたちと一緒に過ごし、生き物に触れるうちに、どんどん興味をもってくれるようになりました。（今日は朝から、「トカゲってどう飼うんですか？」と聞いてきました）大人でさえ周囲の環境ときっかけ一つで、生き物への苦手意識がなくなるのだから、きっと子どもたちの変化というのは劇的でしょう。この１年で子どもたちには、たくさんの生き物に触れ、興味や関心を広げていってほしいと願っています。

生活科学習と知的な気付き

仲間と一緒に生き物探し

今週の生活科の授業では、子どもたちが網や虫かごを片手に、神社のあちこちを探し回っていました。この時の子どもの体験は、将来の理科学習や環境学習の知識にもつながるのですが、生活科で重視される考え方の一つに、「知的な気付き」というものがあります。知識と体験とのつながりがあると、とても知的な気付きが生まれます。
例えば、「落ち葉の下には色々な生き物がいると本で読んだことがあるから、実際に調べてみたらたくさんのダンゴムシがいた」「トカゲは建物のそばにいたから、石やアスファルトの近くが好きなのかもしれない」、このような考え方は知的な気付きであり、こういった考え方を育むことができると、非常に思考力のある子が育ちます。
さあ、右の写真の子どもたちは、どんな考えや予想の下、この場所を探しているのでしょうか。なかなかよい場所なので、よい気付きを得ることができたことと思います。